

雪解の榆陵の

(昭和十九年寮歌)

鈴木信夫 作歌
竹山賢治君 作曲

一

雪解の榆陵の一流や
岸辺に憩ふ水鳥の
孤影ぞしばし春の水
面
ああ石狩の天空晴
れて
轟け謳ふ恵迪の
児等が生命や聖から
ん

二

歡喜憂苦を共にせむ
結ぶ契の盃に
松の枝漏るる月影や
人生意気に感じてか
集ひし雁の行く手稲
青雲の峯巍峨の峯

三

いざや伝統の聖火を翳し
先人の絢夢偲びつつ
寮祭の庭に四十回の
春風頬涙を乾すなれば
散りゆく夜迷雲のかげ消えて
声を限りの感激かな

四

南の海の有明に
燦く星辰の消え果てて
散りぬる若桜もあるぞかし
いかで我等の蹶起ざらん
義憤が胸にほのぼのと
染め映えにしか朝日影

五

噫世は変遷り人変り
館の原始林は愁へども
剛毅の大旆仰ぎてし
熱血燃ゆる益良夫が
皇国の道に挺身まんと
誓ひし眸に光輝あれ